

未来志創

よし！廣晴ろう！

昨日の道徳で「仏の銀蔵」という話を通して、いろいろと考えてみました。授業では、いろいろな見方・考え方を共有することができました。また、皆さんの感想を読んでいると、本当に一生懸命考えてくれたことが伝わってきて嬉しかったです。今日から前期考査が始まります。たくさんの知識を蓄えていくことも大切ですが、何かを通してじっくり考えたり、気付きや学びを得たりしていく時間も大切にしたいですね。

何のための学問か？

ある大学でこんな授業があったという。「クイズの時間だ」教授はそう言って、大きな壺を取り出して教壇に置いた。その壺に、彼は一つ一つ岩を詰めた。壺がいっぱいになるまで岩を詰めて、彼は学生に聞いた。「この壺は満杯か？」教室中の生徒が「はい」と答えた。「本当に？」そう言いながら教授は、教壇の下からバケツいっぱいの砂利を取り出した。そして砂利を壺の中に流し込み、壺を振りながら、岩と岩との間を砂利で埋めていく。そして、もう一度聞いた。「この壺は満杯か？」学生は答えられない。教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出した。それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけてやった。「この壺はいっぱいになったか？」学生は声を揃えて「いや」と答えた。教授は水差しを取り出し、壺の縁までなみなみと注いだ。

彼は学生に最後の質問を投げかける。「僕が何を言いたいのかわかるだろうか？」一人の学生が手を挙げた。「どんなスケジュールが厳しい時でも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込むことは可能だということです」

「それは違う」と教授は言った。「重要なポイントはそこには無いんだよ。この例が私たちに示してくれる真実は、大きな岩を先に入れない限りそれが入る余地は、その後二度とないということなんだ」君たちの人生にとって「大きな岩」とはなんだろう、と教授は話し始める。それは、仕事であったり、志であったり、愛する人であったり、家庭であったり、自分の夢であったり…。ここで言う「大きな岩」とは、君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君たちはそれを永遠に失うことになる。もし、君たちが小さな砂利や砂や、つまり自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしていけば、君たちの人生は重要でない何かに満たされるものになるだろう。そして、「大きな岩」、つまり自分にとって一番大事なものにさく時間を失い、その結果それ自体失うだろう。

☆「目標」と「目的」の違い7か条

「目標」は「何を指す」、目的は「何のために」

- 1 目標は目的のためにある。
- 2 目標は具体的に、目的は抽象的に。
- 3 目標は見えるモノ、目的は見たいモノ。
- 4 目標は過程、目的は行先。
- 5 目標は複数、目的はひとつ。
- 6 目標は諦めても、目的は諦めない。
- 7 目的は目標の先にある。

自分にとっての「大きな岩」とは何なのか、私も考えてみましたが、これといった結論は出ませんでした。ただ、砂利や砂であっても、どうせ入れるならプラスのものを入れたいと思いました。

結果＝考え方×熱意×能力

